



図6. 成虫の飼育状況。

マイモ類)などのフェノロジーに合わせた生活様式を持つこと、即ち、季節的に最適な植物種間を移動、利用することにより定着し、さらに分布域を拡大していくのではないかと推察される。今後の動態に注意していきたい。

末筆ではあるが、調査に協力して頂き、被害状況などを教示して頂いたサツマイモ畑の管理者である石井氏(横浜市)と調査に同行して頂いた大木裕氏(横浜市)にお礼申し上げる。

引用文献

- 稲垣憲昭・渡辺靖夫, 2017. 紀伊半島からヨツモンカメノコハムシを確認. ひらくら, (453): 44.
 神奈川県農業技術センター, 2017. 平成28年度 病害虫発生予察特殊報告, 第4号. 3pp.
 越智あずさ・吉富博之, 2016. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ. さやばねニューシリーズ, (21): 53-56.
 重藤裕彬, 2017. ヨツモンカメノコハムシの分布北限記録の更新. さやばねニューシリーズ, (28): 27-28.

(日下部良康 224-0013 横浜市都筑区すみれが丘 21-12)

【短報】 広島県におけるモリモトタマノミハムシとクロタマノミハムシの初記録

モリモトタマノミハムシ *Sphaeroderma morimotoi* Ohno, 1964 は福岡県英彦山を模式産地として記載された種で、中型で全身がつやを帯びた漆黒が特徴的なノミハムシの仲間である。その後、長崎県の雲仙岳と多良岳(今坂・西田, 1989; 今坂, 2001), 大分県の黒岳(今坂・三宅, 2009), 福岡県の釈迦岳(今坂ほか, 2017), 山口県(三好・田中, 1988), 岡山県真庭市と西粟倉村(末長, 2018)で記録され、現時点では九州と中国地方の山地帯に

局所的に分布していることがわかっている。クロタマノミハムシ *S. atrum* Jacoby, 1885 は Ooyama と Kiga, Nikko から記載された種で, Ohno (1964) では英彦山から記録している。しかし, Kimoto (1965) によりムネアカタマノミハムシ *S. placidum* Harold, 1877 のジュニアシノニムとして処理された。その後, Takizawa (2015) により成虫写真と雄交尾器の図を含めた再記載を行い, 再び独立種として目の目を見ることとなった。また, Takizawa (2015) では栃木県と静岡県から記録している。

この度, 筆者らはモリモトタマノミハムシとクロタマノミハムシを広島県内で確認したので, 県初記録として記録する。なお, 標本データの特記に記述のないものは全て大塚採集・保管である。



図1. モリモトタマノミハムシ。

モリモトタマノミハムシ (図1)

安芸太田町横川: 1 ex., 2. IX. 2017; 2 exs., 24. IX. 2017; 1 ex., 24. IX. 2017, 末長保管; 1 ex., 12. V. 2018; 3 exs., 26. V. 2018; 1 ex., 9. VI. 2018; 4 exs., 4. VIII. 2018; 3 exs., 11. VIII. 2018; 2 exs., 18. VIII. 2018; 3 exs., 26. VIII. 2018; 4 exs., 2. IX. 2018.

安芸太田町虫木ノ峠: 1 ex., 8. IX. 2017.

安芸太田町内黒峠: 1 ex., 16. VI. 2017; 1 ex., 9. VII. 2018.

庄原市比和町越原: 1 ex., 20. VII. 2008, 秋山採集・保管。

庄原市西城町立烏帽子山: 1 ex., 17. VIII. 201, 秋山採集・保管。

庄原市西城町竜王山: 1 ex., 30. V. 2017, 秋山採集・保管。



クロタマノミハムシ (図2)

安芸太田町横川: 1 ex., 8. IX. 2017; 1 ex., 18. VIII. 2018.

両種について, いずれもヘクソカズラなど各種の植物やアザミ類, ミヤマカタバミ, ホトトギ

ス類など、多様な草本類が生えた山かげの山道法面をスイーピングして得られたものである。両種のホストについて今回確認することはできなかったが、ミヤマカタバミやヘクソカズラなどにノミハムシ類がつけたと思われる特有な食痕がついていたことを付記する。

末筆ながら、モリモトタマノミハムシの文献記録についてご教示下さった久留米市の今坂正一氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 今坂正一, 2001. 島原半島の甲虫相4. 長崎県生物学会誌, (53): 65-84.
- 今坂正一・三宅 武, 2009. 大分県で採集した興味深い甲虫(1989-1996). 二豊のむし, 大分, (47): 29-46.
- 今坂正一・西田光康, 1989. 1989年に採集した多良岳の甲虫. こがねむし, 長崎, (50): 1-14.
- 今坂正一・齋藤正治・築島基樹・江頭修志, 2017. 2017年に釈迦岳で採集した甲虫類. KORASANA, (89): 1-92.
- Kimoto, S., 1965. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands IX (Subfamily Alticinae II). Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 13 (3): 431-459.
- 三好和雄・田中 馨, 1988. 山口県の昆虫, 鞘翅目. pp. 126-187. 山口県立山口博物館.
- Ohno, M., 1964. Revision of *Sphaeroderma*-species occurring in Japan and the Loo-choos (Coleoptera, Chrysomelidae, Alticinae). Journal of Toyo University, General Education (Natural Science), (5): 29-60.
- 末長晴輝, 2018. 岡山県におけるハムシ類の分布記録(4). すずむし, 倉敷, (153): 12.
- Takizawa, H., 2015. Notes on Japanese Chrysomelidae (Coleoptera), III. Elytra, New Series, 5 (1): 233-250.

(末長晴輝 710-0807 倉敷市西阿知町 833-8
サンシャイン A205 号室)
(大塚健之 732-0062 広島市東区牛田早稲田 1-11-2)
(秋山美文 729-3511 神石高原町高光 3054)

【短報】キタミヤママグソコガネをナキウサギのため糞から採集

キタミヤママグソコガネ *Aphodius (Agolimus) setchan* Masumoto, 1984 は食糞性コガネムシ類の一種で、北海道の山地帯から高山帯にかけて記録されている(堀, 1997; 佐々木・堀, 1998; 芳賀, 2005)。

これまで、その食糞は、野生動物ではエゾシカやヒグマのものが知られている(岡島・荒谷, 2012)。また、ナキウサギ *Ochotona hyperborea* の糞も食糞としての可能性が示唆されていたが、未確認であった(堀, 2005)。今回、ナキウサギのため糞から本種を採集したので報告する。

2♂, 北海道上川郡東川町旭岳, 12. VIII. 2017, 筆者採集・保管(図1)。

本種を採集した場所は、大雪山国立公園旭岳の登山道脇(alt. 1,550 m)である。植生帯はハイマツ帯で草丈の低いチシマザサが優占し、その群落周縁にウコンウツギ, エゾツガザクラ, シダ類などが生育する。ナキウサギのため糞は沢に向かって緩く傾斜した斜面の植被と登山道の境にできた小崖地の下縁におよそ長さ25 cm, 幅6 cm, 深さ3 cmに広がっていた(図2)。糞は径3-4 mmの球形で、ため糞表面のものは乾燥し堅かった(図3)。



図1. ナキウサギ糞塊から採集されたキタミヤママグソコガネ。



図2. 採集場所の環境(図中の矢印がナキウサギのため糞)。



図3. ナキウサギのため糞。